

1年生高志学リレー講座①を行いました。

令和2年6月18日（木）に、福井県立大学地域経済研究所所長の南保勝教授をお招きし、中学1年生初めての外部講師リレー講座を実施しました。

6年間にわたる高志学のはじまりとして、南保先生には、福井県の成り立ちや産業・経済など、福井県の変遷についてお話しいただくとともに、地方創生のための方向性についてアドバイスいただきました。

参加した生徒からは次のような感想が聞かれ、高い関心がうかがえました。

○今回、福井について聞いてみて、少しだけ福井を好きになることができました。これから、福井がどうなっていくのか、また、自分たちが何をすることができるのかを考えていきたいです。

○福井の産業技術はすごいが、人口減少によって危険な状況になっているため、福井の魅力についてもっと知り、その魅力を発信していくことが重要になると思いました。未来だけでなく、過去についても知り、関心を持つことが重要になると思います。

○福井の経済のこれからについて興味を持つことができました。少数精鋭の方が効率がいいと思っていましたが、そうではなくやはり労働力を増やすことが大切なのだとわかりました。

今年は、コロナ感染症対策として、ついたてのある若葉食堂での実施となりましたが、講義の最後に、南保先生からも「今後は過度な経済成長と利便性の追求は無理、国内の構造、産業も変わる。地方は中央政府の力の限界を認識し、何事も地方自らの手で行う意識を持つことが大切だ。そのために、地方は何をすべきか、独自の企画力、構想力、ビジョン力、アイデア力を養い育てることが必要である。近年、“絆”という言葉をよく耳にするようになったが、その理由は、“絆”の深い地域がいち早く再生したためである。この言葉は、地域の再生・維持・発展を目指す上で重要なキーワード、地域は失われつつある地域のポテンシャルを絆（ネットワーク）によって発揮しなければ。」などアフターコロナの社会についてもアドバイスをいただきました。

